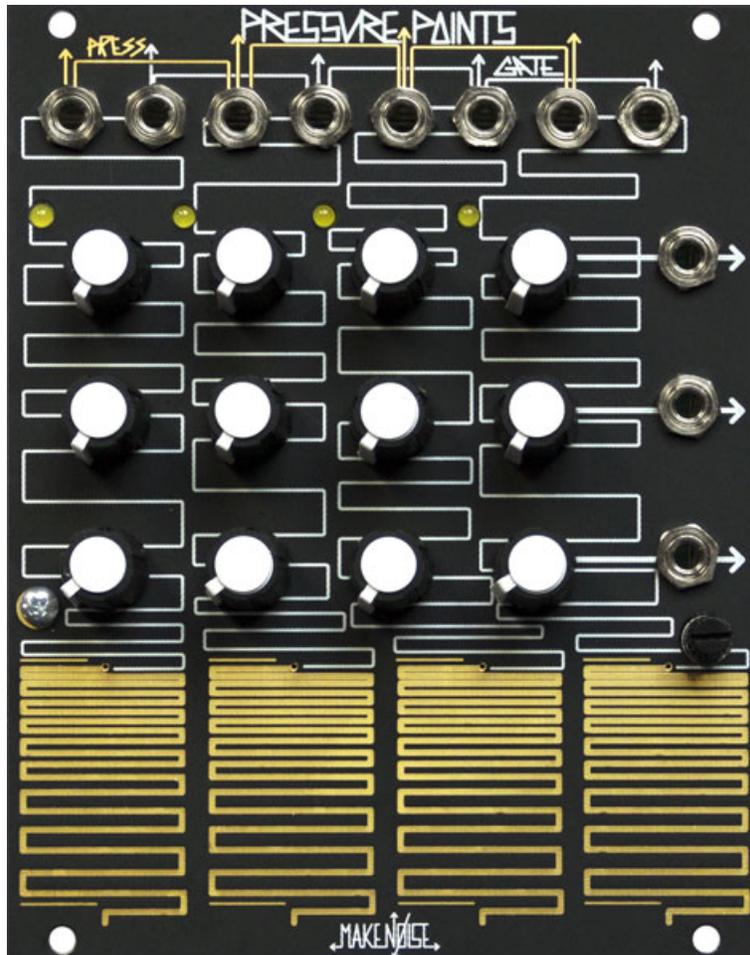


Pressure Points





This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes / modifications not approved by the Make Noise Co. could void the user's authority to operate the equipment.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications.

makenoisemusic.com

Make Noise Co., 414 Haywood Road, Asheville, NC 28806

保証期間につきまして

メイクノイズ製品に関する欠陥、欠品は製造後の1年間は当社が保証致します。
規定外のパワーサプライからの電源供給及び背面電源ケーブルの誤接続による故障、
またはメイクノイズの推奨しない使用方法による故障は期間内であっても保証の対象外となりますので、
通常の有償サービスで対応致します。

保証期間内のあらゆる欠陥品はユーザー様の要望に応じて当社で修理、交換致しますが、
その際に発生する輸送費に関しましてはユーザー様のご負担になります。

また、保証をご希望のユーザー様は必ず事前に当社へのお問い合わせをお願い致します。
当社は事前にご連絡を頂けないユーザー様からのメイクノイズ製品に関する対応を致しかねます。

お問い合わせ先:

technical@makenoisemusic.com

その他のお問い合わせや感想につきましては当社ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.makenoisemusic.com>



INSTALLATION

インストール及び注意事項

メイクノイズPressure Pointsはエレクトロニック・ミュージック・モジュールです。このモジュールは+12vから20mA、-12vから0mAの電力を本体電源から消費するユーロラック・フォーマット・モジュラー・シンセサイザー専用の製品です。

ユーロラック・フォーマット・モジュラー・シンセサイザー及び専用ケースにつきまして詳しくはこちらをご覧ください。
<http://www.makenoisemusic.com/systems.shtml>

インストールするにあたりまずはあなたのユーロラック・シンセサイザーのシステム内に20HPのスペースを確保して下さい。正しいインストールを完了させるためにモジュール背面の電源ケーブル(下記画像参照)を確認した上であなたのユーロラック電源供給ボードの16ピンソケットに接続してください。ここで必ず極性に注意し、ケーブルの赤ラインがマイナス12vの電源に接続されるよう確認して下さい。

Pressure PointsはMean Well製のACアダプターによる電源供給への互換性はありません。

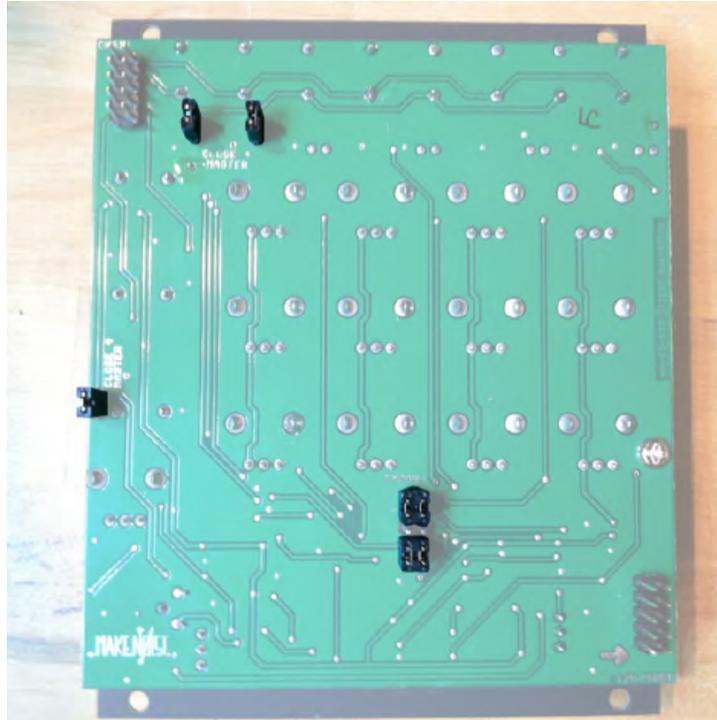
Pressure PointsはMean Well製のACアダプターによる電源供給では正常に作動しません。

メイクノイズはMean Well製のACアダプター使用によるPressure Pointsの不具合におけるサポートは致しませんので何卒ご了承ください。

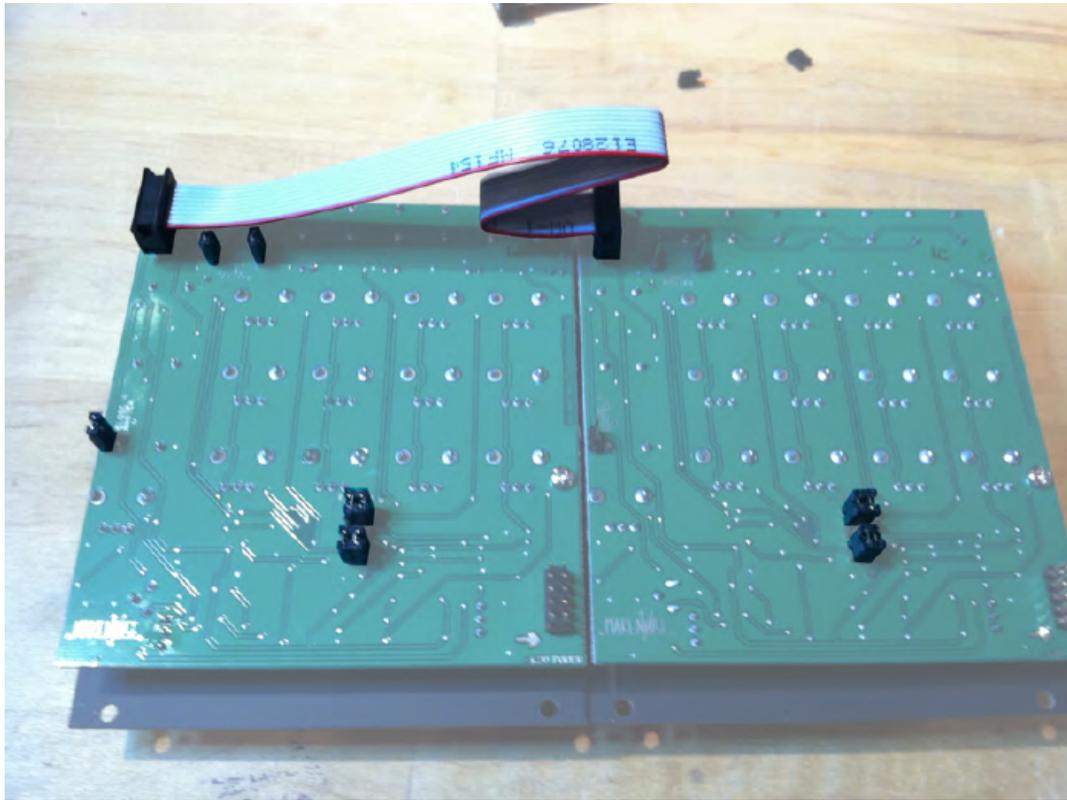
***必ずあなたの電源供給システムのメーカーのスペックを参照にマイナス電源の場所を確認してください。**

ジャンパー及び拡張用背面ケーブル接続図:

(ここでは各モジュールへの電源供給ケーブルの接続図は表示されていません。)

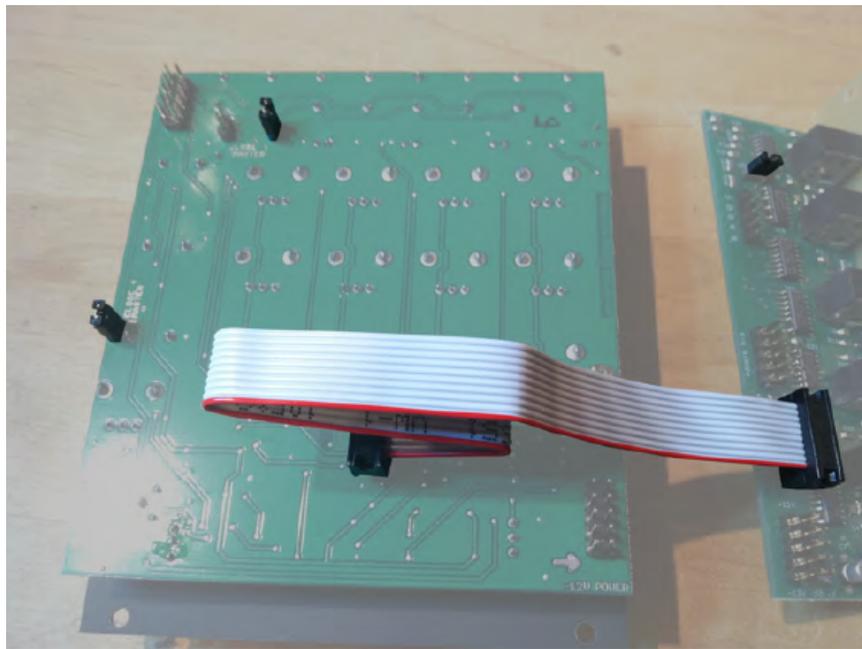


上の図はBRAINSを接続しないPressure Points単体で使用する場合があります。“EXPAND”ヘッダーと“Close 4 Master”ヘッダーすべてにジャンパーで閉じるようご注意ください。

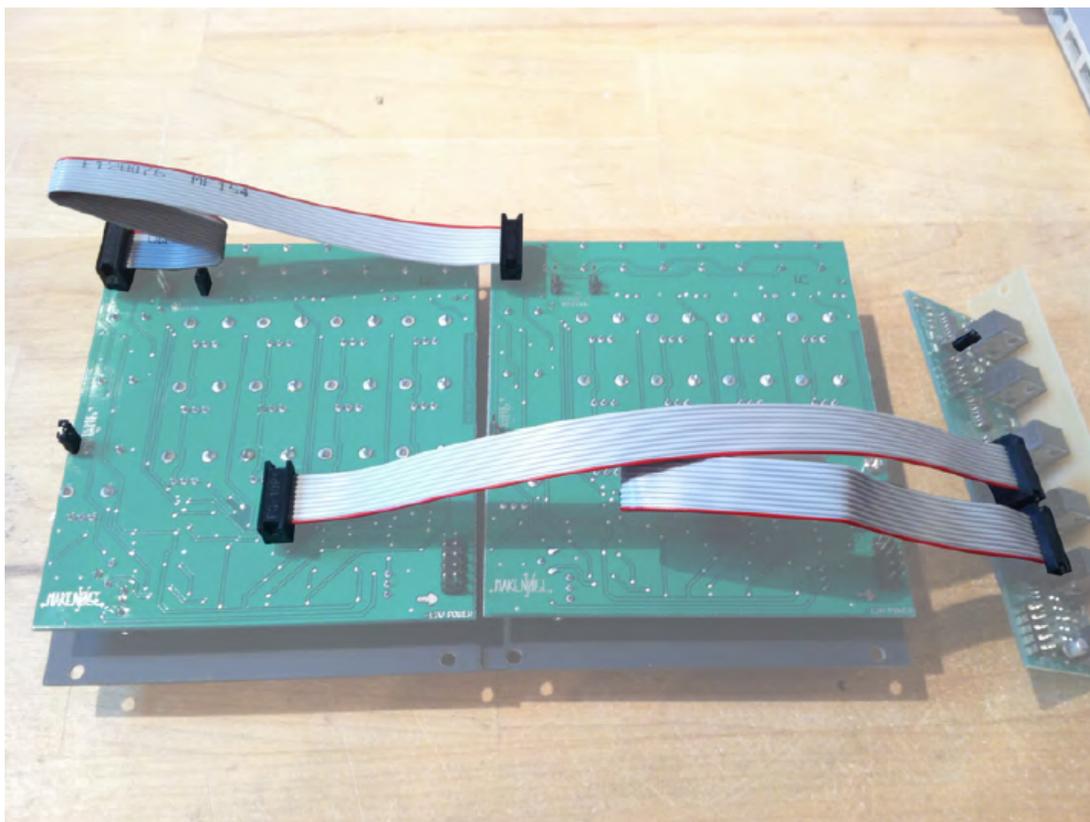


上の図は2機のPressure Pointsを連結して使用する場合があります。“Close 4 Master”ヘッダーはマスター・ユニット(ケースにインストール時には右側になります)のみジャンパーで閉じます。3機または4機のPressure Pointsを連結させる場合は4ヘッダー・チェーン・ケーブルを用い、マスター(インストール時にに最右、裏側から見た場合は最左となります)以外のユニットの“Close 4 Master”のジャンパーを外します。拡張用ヘッダーはジャンパーで閉じるようご注意ください。

ジャンパー及び拡張用背面ケーブル接続図:

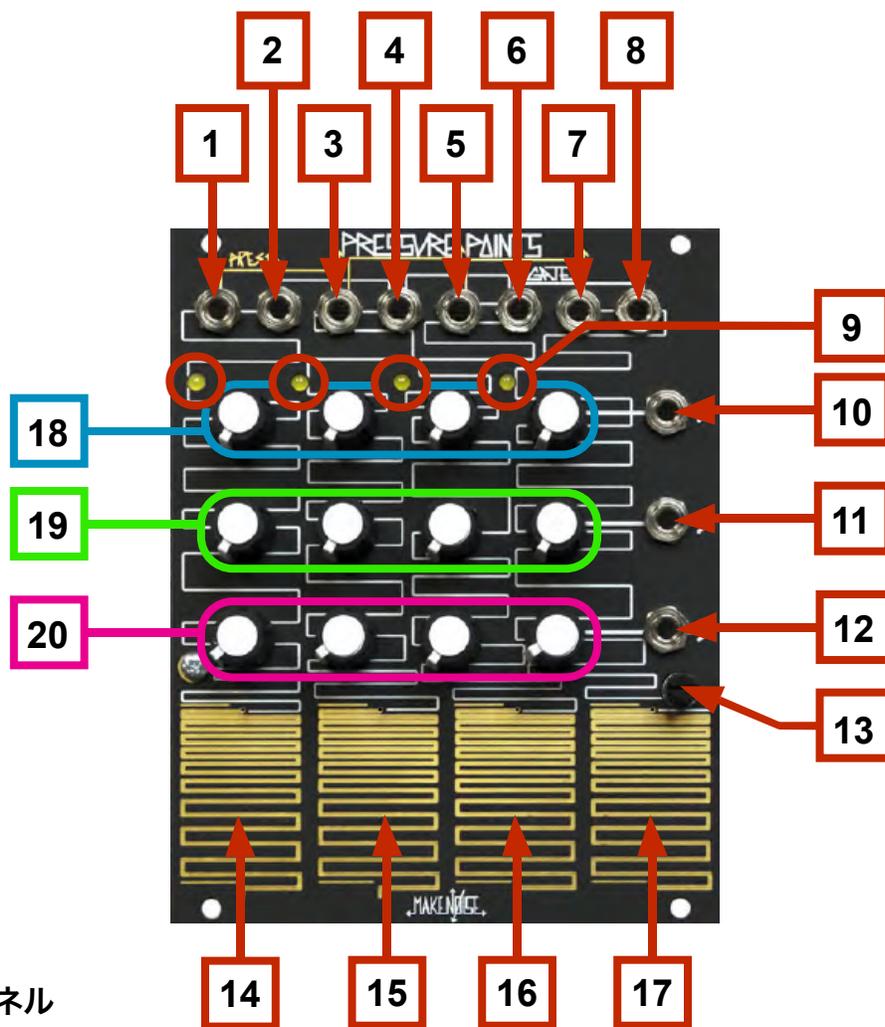


BRAINSと単体Pressure Pointsの接続: “Close 4 Master”ヘッダーは図の位置の一つだけジャンパーを外します。BRAINSの”Points 1-4”ヘッダーとPressure PointsのEXPANDヘッダーをケーブルで接続します。BRAINSの”1PP”をジャンパーで閉じます。



BRAINSと2機のPressure Pointsの接続:

BRAINSに接続出来るPressure Pointsは最大2機です。BRAINSの”Points 1-4”と”Points 5-8”を図のように各Pressure Pointsの”EXPAND”ヘッダーに接続します。マスターとなるPressure Pointsの”Close 4 Master”ヘッダーは図の位置の一つだけジャンパーを外し、もう一つのPressure Pointsの”Close 4 Master”ヘッダーは3つ共ジャンパーを外します。BRAINSの”2PP”をジャンパーで閉じます。



Pressure Points パネル

1. Pressureアウト1
2. Gateアウト1
3. Pressureアウト2
4. Gateアウト2
5. Pressureアウト3
6. Gateアウト3
7. Pressureアウト4
8. Gateアウト4
9. アクティヴ・ステージLEDS
10. チューンド・ヴォルテージ・アウトX: 0~8V
11. チューンド・ヴォルテージ・アウトY: 0~5.5V
12. チューンド・ヴォルテージ・アウトZ: 0~5.5V
13. デイジット・トリマー: タッチ・プレートの感度を調整します。
14. タッチ・プレート1: 触れる事で作動列を選択し、ゲートの生成と共に圧力(Pressure)をCVで生成します。
きれいな状態かつ肌を露出した手で使用します。
15. タッチ・プレート2: 同上
16. タッチ・プレート3: 同上
17. タッチ・プレート4: 同上
18. チューンド・ヴォルテージ・ノブ: X行
19. チューンド・ヴォルテージ・ノブ: Y行
20. チューンド・ヴォルテージ・ノブ: Z行

機能概要

Pressure Pointsはモジュール下部にある4つの印刷銅線部を触れることで対応する1列の3つのチューンド・ヴォルテージを選択するコントローラーです。Pressure Pointsに触れることであなた自身が回路の一部となり、ゲート信号を生成し(Gateアウト)、触れている圧力によってCVを生成(Pressureアウト)すると同時に対応する1列の3つのチューンド・ヴォルテージを作動させます。作動列のチューンド・ヴォルテージはそれぞれX,Y,Zアウトから出力されます。これらは手動によるアナログ・シーケンサーと捉えて良いでしょう。

拡張用モジュールのBRAINSを用いることでクロック入力で作動列を選択することもできます。

(<http://www.makenoisemusic.com/brains.shtml>)

2つのポットを調整することでタッチ・プレートの感度を演奏スタイルに合わせることができます。また、最大4機のPressure Pointsを連結することでコントローラーとしてのサイズと機能を拡張することができます。連結することで各タッチ・プレートのGateアウト/Pressureアウト共に背面ケーブルによるバスで内部接続(ノーマライズ)され、マスター(最も右側)のGateアウト/Pressureアウトから出力されます。

つまりPressure PointsのGateアウト1~3,Pressureアウト1~3にパッチングのない場合、すべてのタッチ・プレートのGateアウト、PressureアウトはGateアウト4とPressureアウト4から出力されます。任意のGateアウト、Pressureアウトにパッチングすることでノーマライズは切断され、Gateアウト4とPressureアウト4から出力されなくなります。モジュールを連結した場合このノーマライズは最も右側のPressure PointsのGateアウト4とPressureアウト4に移行されます。

演奏

Pressure Pointsの操作にはコツがあります。まず始めにきれいな手で使用しましょう。各タッチ・プレートの銅線が密集した上部に指を少し触れるだけで回路は作動し、ゲートが出力され、対応する列を選択します。選択した同列上の3つのチューンド・ヴォルテージ・ノブで設定されたCVがそれぞれの同行上にあるX,Y,Zアウトから出力されます。そのまま指をタッチ・プレートに押しつけ、圧力を上げれば銅線部に接触する指の面積の拡大に比例して増幅するCVがPressureアウトから出力されます。タッチ・プレートの感度はディジット・トリマーで調整できます。トリマーを時計回りに全開に開けばプレートからプレートへ指を滑らせるだけで作動列は素早く移動します。また反時計回りに絞ることでPressureアウトから出力されるCVの強弱の幅を繊細なものにすることができます。もしも自分が求める反応が得られなければもうひとつの内蔵ディジット・トリマーを調整してあなたの指の大きさ、湿度、演奏スタイルやケース(平置き型、縦置き型、傾斜型など)に合わせる必要があるかもしれません。この場合、トリマー・ツールまたは小さなスクリュードライバーを用いてモジュールの右側面から基盤に取り付けられた内蔵ディジット・トリマーを調整します。調整をおこなう際はPressure Pointsの電源を落としてください。工場出荷時の内蔵ディジット・トリマーは時計回りに40%の位置に設定されています。時計回りに開く程タッチ・プレートの感度は高くなり、小さい、または乾いた指に向きます。人間それぞれ指の環境は異なるので、様々な感度での演奏を試して最良の設定をみつけてください。

複数のPressure Pointsの連結

10ピン・リボン・チェーン・ケーブルが必要です。Pressure Pointsを購入した店舗でお求めください。また連結時は各モジュールのジャンパーのセッティングをお忘れなく。各モジュールとシステムの電源ケーブル接続による電源供給は連結時も必要となります。その他の楽器のようにPressure Pointsは丁寧に扱きましょう。パネル表面の破損を防ぎ、きれいな状態を保ちましょう。汚れはメガネレンズ用のマイクロファイバー制クロスを用いて拭き取ってください。

TIPS & Tricks:

-最上部のX行の電圧レンジは0~8Vです。また、各ノブを反時計回りに絞るか、時計回りに全開にするか、二極化することでチューンド・ヴォルテージ・アウトXからゲート出力によるシーケンスを作れることもできるでしょう。

-チューンド・ヴォルテージ・アウトをMATHSのチャンネル1や4などによるスルー・リミッターやアッテネーターを通すことでモジュレーションの幅はさらに広がります。

-“ラッチ”や“トグル”や“スイッチ”等のコントロール・シグナルはPressure Pointsの2列を使用することで生成できます。

一方のチューンド・ヴォルテージ・アウトを0V(トグルOFF)に設定し、他方をONに切り替える必要の値の電圧

(例えば+8Vまたは時計回りに全開など)に設定します。これで一方の列のタッチプレートに触れることでOFF、他方に触れることでONに切り替えることができます。

-プリセット用電圧として3種類の4つのプリセットを保存できます。X,Y,Z行のチューンド・ヴォルテージで各ヴァリエーションを設定します。加えてPressアウトとGateアウトが各列毎に異なるパッチ先への独立したプリセット出力としても使用できるでしょう。

ゲートが必要でなければアッテネーターなどを通してタッチ操作による一時的なモジュレーション・ソースとして使用するとよいでしょう。

-すべてのチューンド・ヴォルテージ・アウトとPressアウトは負担なくパッシブの4連マルチプルで分岐することができます。

-すべてのGateアウトは任意のゲート入力にスタックさせてゲート信号をミックスさせることもできます。

パッチ例

タクティカル・キーボード

Y,Z行のチューンド・ヴォルテージ・アウトを任意のVCOの1v/Oct入力へパッチします。VCOからの任意の波形出力をLPGまたは

VCA入力へパッチします。共有GateアウトであるGateアウト4をMATHSのCH1または4へ、またはADSR型

エンヴェロープ・ジェネレーターの入力へパッチします。エンヴェロープ出力をLPG/VCAのコントロール入力へパッチします。

Y,Z行のノブを調整してVCOのノートを設定します。オプション1: エンヴェロープ・ジェネレーターやVCAを使用せず、Gateアウト4を

直接OptomixやDPO、MMGなどのStrike入力へパッチしても良いでしょう。オプション2: 共有Gateアウトまたは各Pressureアウトを

音質コントロールに使用してみましょう。例えばVCOに続くフィルターのカットオフ値やDPOのFoldインなどにパッチしてみましょう。

ザ・ニュー・ボンゴ

サイン波によるリニアFM入力を使用した2オペレーターFMを受けるVCOを用意し、出力をOptomixの入力にパッチします。

Pressure Pointsの共有GateアウトであるGateアウト4をOptomixのStrikeインへパッチし、Gateアウト3をDAMPインへパッチします。

タッチ・プレート4に触れることで“ボンゴ”を打ち、タッチ・プレート3に触れる間はディケイ音を沈めます。

DAMPインプット・アッテネーターの設定で減衰力をコントロールします。オプション1: 1つまたは2つのPressureアウトをOptomixの

ControlインやDAMPインへ入力することでより幅のあるコントロールが可能になります。オプション2: GateまたはPressureアウト1と2を

使用してサウンドの減衰力や細さを他の方法で変化させます。例えばDPOのFINALアウトを使用すればSHAPE CVにパッチすることで

サイン波をスパイク波に変化させることができます。MMGを使用すればMODE CVインにパッチすることでロー・パスからハイ・パスへ

変化させることができます。MATHSを利用してGateアウトからのゲート出力を反転させてDPOのFOLDインへパッチングし、

倍音量を減衰させても良いでしょう。